

指標確認シート

【資質・能力向上期】



愛媛県総合教育センター

—目次—

観点	キーワード	ページ
人間力	学び続ける向上心	1
	使命感・倫理観	2
	豊かな人間性	3
	人権感覚・人権意識	4
	識見・教養	5
	心身の健康	6
実践的指導力	省察力	7
	教科等指導力	8
	ICT 活用能力	9
	学級経営力	10
	生徒指導力・教育相談力	11
	特別支援教育実践力	12
	えひめ人材育成力	13
組織力	組織貢献力	14
	学校安全の意識・危機管理能力	15
	協働性・同僚性	16
信頼構築力	対人関係力	17
	地域と連携・協働する力	18

「学び続ける向上心」

社会環境の急速な変化、学校を取り巻く環境変化、大量退職・大量採用による年齢、経験年数の不均衡による弊害等により学校が抱える課題は多様化・複雑化しています。社会や国の変化を踏まえ、教員が高度専門職としてそれらの課題に対応していくためには、学び続ける向上心を持ち続けることが必要です。

基盤形成期

～ 資質・能力発展期

指標

常に目標を持ち、その実現に向けて、学び続ける。

社会の進歩や変化のスピードが速まる中、子どもたちの生きる力を育むためには、教員は教職生活全体を通して、自主的に学び続ける力が必要です。そのためには、年齢や経験年数に関わらず、自分で課題を見付け、常に新しい目標を持ち、課題を解決しようとする姿勢が重要です。

〔具体的な姿〕

- 社会、環境の変化を的確につかみ取り、それらを踏まえた適切な教育活動を実践している。
- 校内、校外研修など様々な研修の機会を活用したり、自主的な学習を積み重ねたりしている。
- 学校内において、同僚の教員と支え合いながら、OJTを通じて日常的に学び合っている。
- 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善等、新たな教育課題に取り組んでいる。
- 資質・能力向上のため、長期目標や短期目標を設定し、その目標達成に向けPDCAサイクルを機能させている。



◇自分の姿を振り返って

〔A よくできている B ややできている C あまりできていない D できていない〕

項目	月日 /	月日 /	月日 /
キャリアステージに応じて求められる資質・能力を理解している。			
自ら学ぶ姿勢を持ち、授業改善や教育課題の対応に向けて、研修等に取り組んでいる。			
適切な目標設定を行うとともに、実践、評価、改善を通して、自らの資質・能力の向上に取り組んでいる。			

「使命感・倫理観」

教員は、教育公務員として「全体の奉仕者」であり、高い倫理観が求められます。また、教育基本法で、「法律に定める学校の教員は、自己の崇高な使命を深く自覚し、絶えず研究と修養に励み、その職責の遂行に努めなければならない。」と定められているように、教育の目的の実現に向け、全ての教員が教育者としてのあるべき姿を深く考え、強い責任感を持って職務に当たることが求められます。

基盤形成期

～

資質・能力発展期

指標

使命感や責任感を持って教育活動に取り組む。

教育公務員として法令を遵守し、職務を遂行する。

教員は、児童生徒の人格形成や人生の在り方に大きな影響を与えます。このことに対する情熱と使命感、強い責任感を持つことは、教員にとって不可欠な資質です。児童生徒に愛情を持って接し、適切な言動が常にできるよう、教員としての自己の在り方を見つめていくことが必要です。また、児童生徒や保護者、地域からの信頼を得る上で、法令を守り、児童生徒の手本となるような規範意識を持つことも大切です。

[具体的な姿]



- 児童生徒の人格形成や人生に大きな影響を与える仕事であるという使命感と強い責任感を持っている。
- 教職への情熱を持つとともに、客観的に自己を見つめ、教育者としてのあるべき姿について深く考え、自己研鑽をしている。
- 公平かつ愛情を持って児童生徒と接するとともに、一人の大人として、児童生徒の手本となるような言動をしている。
- 教育公務員としての職務上の義務と身分上の義務を遵守し、規範意識を持って職務に当たっている。

◇自分の姿を振り返って

[A よくできている B ややできている C あまりできていない D できていない]

項目	月日 /	月日 /	月日 /
教職への情熱を持つとともに、自らを客観視し、理想的な教員像の実現に向け、自己研鑽をしている。			
愛情を持って児童生徒と接し、児童生徒の手本となるような言動をしている。			
教育公務員として、「すべきこと」「してはならないこと」を明確にし、職務に当たっている。			

「豊かな人間性」

愛媛県は、求める教師像として、「子どもが好きで、未来を担う子どもたちを育成しているという誇りと気概を持って教育に当たることができる人」、「愛顔（えがお）にあふれ、あいさつを大切にしている人」、「仕事にも人にも誠実に向き合う人」の3点を挙げています。学校教育を巡る様々な課題への対応のために、優れた資質・能力を備えた魅力ある教師が必要とされています。

資質・能力向上期 ～ 資質・能力充実期

指標

子どもたちや保護者、同僚を魅了する豊かな人間性を持つ。

教員としての経験を重ねる中で、一人の社会人として、保護者や同僚からも認められる、魅力的な人間性を身に付けることが求められます。普段から教育者としての信念を持ち、日々の教育活動において、同僚の仕事をサポートしたり、真摯な態度で保護者と接したりして信頼関係を深めていくことが必要です。

[具体的な姿]

- 保護者の悩みや要望を真摯に受け止めることができ、協力して子どもを成長させていくパートナーとして信頼を得ている。
- 自分の仕事をいち早く処理し、周囲の人の仕事を率先して手伝うなど、職場の同僚のことを気遣っている。
- 後輩の面倒をよく見たり、失敗したときに上手にフォローしたりしている。
- 小さなことも見逃さずに褒めたり、その場や相手に合わせて臨機応変に動いたりすることで、周りにいる人々の心をつかんでいる。



◇自分の姿を振り返って

[A よくできている B ややできている C あまりできていない D できていない]

項目	月日 /	月日 /	月日 /
教育のプロとしての信念を持ち、自らの力量を向上させようとする姿勢で仕事に臨んでいる。			
保護者に対して、協力的な姿勢で誠実に対応し、信頼を得ている。			
同僚を気遣ったり、仕事を積極的に手伝ったりし、信頼を得ている。			

「人権感覚・人権意識」

学校においては、人権尊重の理念を全ての教育活動の基礎におき、進路を保障する教育の実践、同和問題学習をはじめとする様々な人権学習の推進及び仲間意識に支えられた集団づくりを通して、人権の確立と差別解消に向けた児童生徒の実践力の育成が求められています。そのためには、教員自らが深い認識と実践力を身に付けていくことが大切です。

基盤形成期

～

資質・能力発展期

指標

多様な価値観を尊重し、常に人権感覚を磨くとともに、人権意識を高め続ける。
人権問題に対する正しい理解や認識を深め、問題解決への確固たる姿勢を確立する。

全ての教職員が、差別の現実深く学ぶことを基本理念とし、同和問題をはじめとする様々な人権問題解決への確固たる姿勢を確立することが大切です。また、全ての児童生徒が喜びを持って参加できる学校づくりに努め、喫緊の課題である、いじめや不登校の未然防止や解決に向けて主体的に取り組む姿勢を確立することも不可欠です。

〔具体的な姿〕

- 人権・同和教育推進上の職務別の任務内容と課題を明らかにし、解決に向けて主体的に取り組んでいる
- 同和問題学習資料についての研究や分析をはじめ、研修会に積極的に参加するなど、差別解消に向けた自らの実践力を高めている。
- 教育活動において意見を取りまとめる際には、多様な考え方を受け止めながら、集団にプラスとなる解決策を模索する姿勢を大切にしている。
- プライバシーを巡る問題は、基本的人権に関わる重要な問題であると認識し、学校が保有する個人情報については適切に取り扱っている。
- 自らの発言や行動が学級や学校内の雰囲気をつくり出すことを意識し、定期的に振り返り、人権意識の高揚を目指している。



◇自分の姿を振り返って

〔A よくできている B ややできている C あまりできていない D できていない〕

項目	月日 /	月日 /	月日 /
学習資料の研究や分析をはじめ、研修会に積極的に参加するなどして、成果を日々の教育活動に取り入れようとしている。			
いじめや不登校の未然防止や解決に向けて、児童生徒の気になる様子や努力している姿について、同僚や保護者と情報を共有している。			
名簿、連絡網、写真の掲載、成績等、個人情報の取り扱いには十分配慮している。			

「識見・教養」

教員は教員である以前に、変化の時代を生きる社会人として必要な資質能力を十分に兼ね備えていることが不可欠です。そのため、教員は、広く豊かな教養を身に付け、社会人として適切に判断して行動することができるとともに、様々な情報が飛び交う時代で、それを正しい情報であるか判断しつつ、教育現場に反映できるような力が求められます。

資質・能力向上期 ～ 資質・能力充実期

指標 幅広い知識や教養を教育活動に生かす。

めまぐるしく変化していく時代に対応していくことや、変化に敏感に対応し、柔軟な考え方で、幅広い知識を教育活動に積極的に生かすことが求められます。学習指導要領をはじめとして、教育情報や最新の教育技術に精通するとともに、地域社会の課題や動向にも関心を持ち、広く学校の教育活動に生きるよう、情報を活用することが重要です。

〔具体的な姿〕

- 学習指導要領の改訂をはじめとして、幅広く教育情報を収集し、教員に必要な知識を身に付けている。
- 社会情勢の変化を敏感に察知し、これからの教育活動に必要な知識や考え方を吸収し、柔軟に対応している。
- 情報化やグローバル化など社会の変化をとらえ、専門性を高めるために努力し、学び続けている。
- 新しい指導法、教材などを積極的に取り入れ、教員としてのスキルを磨いている。



◇自分の姿を振り返って

〔A よくできている B ややできている C あまりできていない D できていない〕

項 目	月日 /	月日 /	月日 /
幅広く教育情報を収集し、日々の教育活動の改善に取り組んでいる。			
社会情勢の変化を敏感に察知し、社会から学校への要請に対して適切に判断し、対応することができる。			
社会人としての常識的な判断基準を身に付け、児童生徒はもとより、後輩の手本となる言動がとれている。			

「心身の健康」

学校が抱える課題の複雑化・困難化に伴い、教員の勤務時間の長さや精神疾患による休職者の増加が指摘されています。充実した教員生活を送るための基盤は、心身の健康です。心身ともによりよい状態で子どもたちと向き合うことで、教育の効果も一層高まります。

基盤形成期

～

資質・能力発展期

指標

自他のワーク・ライフ・バランスを図り、心身の健康の維持・増進に努める。

教員の仕事は多忙であるため、仕事と生活が両立しにくい現実があります。やりがいや充実感を感じながら、日々の仕事と向き合うとともに、家庭生活の充実や自己啓発等に掛ける時間も大切です。限られた時間の中で効率よく仕事を進め、心身の健康の維持・増進に努めることが求められています。また、よりよい職場環境づくりのために、同僚の心身の健康にも気を配る必要があります。

〔具体的な姿〕

- 毎日の業務内容を明確にしたり、その日の退勤時刻を設定したりするなど、計画的に仕事を進めている。
- 健康の維持・増進のため、適切な運動、食事、休養、睡眠を十分にとっている。
- 適切に年休を取得するなど、家族や友人と過ごす時間や趣味に費やす時間を確保し、心身ともにリフレッシュしている。
- 同僚の仕事の状況にも気を配り、進んで声を掛けたり、助力したりする。
- 悩みを一人で抱え込まず、悩んでいる分野に精通している同僚に相談を持ちかけるなど、解決に向けて取り組んでいる。



◇自分の姿を振り返って

〔A よくできている B ややできている C あまりできていない D できていない〕

項目	月日 /	月日 /	月日 /
健康の維持・増進を図り、教員としての仕事と、プライベートを充実させている。			
計画的に時間を使い、能率的・効率的に仕事を進めている。			
同僚の様子に気を配り、協力して仕事を進めている。			

「省察力」

教員として成長し続けるためには、学び続ける向上心を持つとともに、自らを振り返り、課題を明確にし、自己の成長に向けた手立ての構築につなげていくため力が必要です。日々の教育実践や教員としての在り方について深く顧みて、成果や課題を分析し、キャリアステージに応じた適切な目標を設定していくことが求められます。

資質・能力向上期

～

資質・能力充実期

指標

自分のよさや課題を正しく認識し、日々の教育活動の改善に取り組む。

日々の授業や学級経営だけではなく、中堅教員として、校務分掌や人材育成、学校全体の運営について、自己の役割や取組を振り返ることが必要です。これまでの教職経験で培われた教員としての強みや課題を明確にし、学校教育目標の実現に向けて、自分の強みをどのように生かせるか、自分の課題をどのように解決していくかという視点で目標の設定と実践に取り組むことが求められます。

〔具体的な姿〕



- 日々の授業や学級経営だけではなく、校務分掌や学校運営に関わる取組について、振り返りと目標設定を行っている。
- これまでの教職経験で培われた、自分自身の教員としてのよさや強みを理解するとともに、改善する必要がある課題について明確にしている。
- 自己の課題の改善に向け、具体的な手立てを講じて実践に取り組み、教員としての更なる成長を図っている。
- 学校教育目標の実現や学校の課題の改善に向け、自己のよさや強みをどのように生かすか考え、実践を行っている。

◇自分の姿を振り返って

〔A よくできている B ややできている C あまりできていない D できていない〕

項目	月日 /	月日 /	月日 /
これまでの教職経験を振り返り、自分自身の教員としての強みと課題を明確にしている。			
日々の教育実践や学校運営に関わる自己の取組を振り返り、自己の強みと課題を踏まえた目標設定を行っている。			
学校教育目標の実現に向けて、自己の課題を改善するとともに、強みを生かした手立てを考え、実践を行っている。			

「教科等指導力」

教科とは教育の根本目的をもとにして、社会の要求を考え、そこから設定した教育目標に達するための多面的な内容をその性質によって分類し、いくつかのまとまりを作ったものです。教科は、学校教育の基本的な要素ですから、教科等指導力は、教育の目標を達成するための基本と言えます。

資質・能力向上期

指標 授業研究等により指導技術の向上に努める。

教育公務員は、その職責を遂行するために、絶えず研究と修養に努めなければなりません。教師同士の研修として、海外でも高く評価されている授業研究等によって、授業力や生活指導力、学級運営力が支えられてきました。積極的に他の教員の授業を参観し、研究授業を進んで行うなど、意欲的に授業研究等に取り組む姿勢を持ち続けることが大切です。

- [具体的な姿]
- よりよい授業を行うため、授業方法や学習内容に関する書籍や実践事例等を参考に、教材研究を行っている。
 - 学習のねらいに沿った分かりやすい発問ができ、「指導と評価の一体化」を心掛けた授業に取り組んでいる。
 - 思考力・判断力・表現力を育成することを意識して、児童生徒の考えの違いや、深まりが見える学習指導を行っている。
 - 定期的に研究授業を行い、同僚からの意見を参考にし、授業改善を図っている。
 - 日頃から、校内で互いの授業を参観し合ったり、よりよい授業展開例を相談したりするなど、指導技術の向上に努めている。
 - 研究授業において、自分の意見を積極的に発言するとともに、よいところを意欲的に吸収し、自分の授業に生かそうとしている。



◇自分の姿を振り返って

[A よくできている B ややできている C あまりできていない D できていない]

項目	月日 /	月日 /	月日 /
自らの専門性の高めるため、教材研究を積極的に行い、学習内容や指導方法について理解を深めている。			
先輩の授業や、他校の先生の授業を見学し、指導技術を吸収しようとしている。			
自分の授業を同僚に見てもらえる機会を積極的に設け、指導方法の改善に生かしている。			

「ICT活用能力」

学習指導要領において、「情報活用能力」が学習の基盤となる資質・能力の一つとして明確に位置付けられました。この情報活用能力の育成を図るため、各学校においてコンピュータ等の情報手段を適切に活用した学習活動を充実することや、校務の効率化に向け、情報手段を活用することが求められており、教員のICT活用能力の向上が重要な課題となっています。

基盤形成期

～ 資質・能力向上期

指標

ICT機器を活用して主体的・対話的で深い学びの実現に努める。

教科指導等におけるICT機器の活用は、児童生徒の学習への興味・関心を高めるとともに、分かりやすい授業を実現していく上でより効果的であり、主体的・対話的で深い学びにつながるものと期待できます。

[具体的な姿]

- 教育効果をあげるには、どの場面でどのようにICT機器を活用すればよいのか計画を立てている。
- 学習に対する児童生徒の興味・関心を高めるために、ICT機器を活用して資料などを提示している。
- 児童生徒がICT機器を活用して、自分の考えを分かりやすく発表したり表現したりできるように指導している。
- ICT機器の活用について、自らの実践事例や同僚の実践事例を共有し、授業等に生かしている。
- 児童生徒が情報社会の一員としての自覚を持ち、ルールやマナーを守って情報を集めたり発信したりできるように指導している。



◇自分の姿を振り返って

[A よくできている B ややできている C あまりできていない D できていない]

項目	月日 /	月日 /	月日 /
ICT機器を積極的に活用しながら、主体的・対話的で深い学びにつながる授業改善を行っている。			
ICT機器を活用した実践事例を蓄積し、教師相互でそれらを共有している。			
情報社会における問題など、最新の情報収集に努め、児童生徒の指導に生かしている。			

「学級経営力」

学級経営とは、学校の教育目標・学年目標を受けた学級目標を日々の具体的な実践を通して実現していく学級担任の意図的、計画的、継続的な営みです。そして、究極的には、一人一人の子ども自己実現を目指すものです。全ての子どもが生き生きと目を輝かせて活動し、満足感や充実感が味わえる支持的風土作りをしていくことが強く求められています。

資質・能力向上期

指標

児童生徒が高め合える学級集団づくりを行う。

児童生徒の成長のためには、望ましい人間関係の中で、異なる立場を認め合ったり、課題の解決に向けて協働したりする体験を通じて、お互いに影響を与え合い、高め合うことが大切です。教員は、一人一人の児童生徒を理解し、学級内の人間関係を調整・改善するとともに、児童生徒が主体的・協働的に活動できるような仕掛けを考えていくことが必要です。

〔具体的な姿〕

- 定期的に教育相談を行うなど、児童生徒理解に努め、児童生徒が互いの違いを認めながら相手のよさを見付けられるような教育活動を意図的に取り入れている。
- 児童生徒の考えを反映させながら、学級内のルールづくりを行うなど、児童生徒の規範意識を育むために適切な指導をしている。
- 学年主任、副担任、他クラスの学級担任等と連携し、児童生徒一人一人のよいところを見付けるとともに、配慮を要する児童生徒の情報共有ができています。
- 電話連絡だけでなく、必要に応じて家庭訪問を行うなど、家庭との適切なコミュニケーションをとり、保護者との信頼関係の構築を図っている。



◇自分の姿を振り返って

〔A よくできている B ややできている C あまりできていない D できていない〕

項目	月日 /	月日 /	月日 /
互いの個性を尊重し、異なる考え方を認め合うことができるような学級集団づくりを行っている。			
児童生徒が主体的・協働的に活動できるような学級経営を行っている。			
学年の中で、他の教員と連携し、指導の方向性を意識しながら学級経営を行っている。			

「生徒指導力・教育相談力」

生徒指導は、一人一人の児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的な資質や行動力を高めることを目指して行います。また、教育相談は、児童生徒それぞれの発達に即して、自己理解を深めさせ、人格の成長への援助を図ります。生徒指導力や教育相談力を身に付けることは、児童生徒に自己実現を図っていくための自己指導能力の育成につながると考えます。

資質・能力向上期

指標

児童生徒に寄り添い、話をよく聞き、適切に対応する。

児童生徒にとって、悩みや問題を教師に相談するという行為はとてもハードルが高いものです。日頃、教師からの声掛けなどでハードルを下げ、相談しやすい雰囲気を作成することが大切です。話を聞くときには、「傾聴」「受容」「共感」を意識し、「一緒に解決方法を探す。」というスタンスで臨むことが必要です。

[具体的な姿]



- 児童生徒と適切な人間関係を築き、相談しやすい雰囲気を作っている。
- 児童生徒が、抱える悩みや問題をしっかり話すことができるように、ペースを合わせ、相槌を打ちながら聞くことに徹している。
- 悩みや問題を抱える児童生徒の困り感を理解するために、つらい気持ちや経験を想像しながら話を聞いている。
- 児童生徒から解決案を引き出すために、話をじっくりと聞き、一緒に対応策を考えている。

◇自分の姿を振り返って

[A よくできている B ややできている C あまりできていない D できていない]

項目	月日 /	月日 /	月日 /
児童生徒の話を途中でさえぎらず、ペースを合わせて、じっくり聞いている（傾聴、受容の姿勢）。			
問題を抱える児童生徒の心情や困り感に共感しながら、話を聞いている（共感の姿勢）。			
一方的に解決策を提案するのではなく、児童生徒と話し合いながら実現できそうな対応策を考えている。			

「特別支援教育実践力」

障がいのある児童生徒の生活や学習上の困難を改善又は克服するためには、インクルーシブ教育システムの考え方を理解し、適切な指導及び必要な支援をできることが求められます。また、障がい者理解を推進するために、校内外で組織的・計画的に対応する力を身に付けることも重要です。

資質・能力向上期

指標

特別支援教育の視点に立った実践的指導力を持つ。

障がいのある児童生徒を含めた特別な教育的支援が必要な児童生徒の困難さに応じた多様な学習指導、学級経営、生徒指導等の方法が分かり、それらを活用することで、学校生活全般における指導の幅を広げることができます。また、障がい理解の推進のために、交流及び共同学習の内容・方法の改善に努めることが大切です。

[具体的な姿]

- 活動の見通しを持たせるための本時の流れの掲示、フラッシュカードを活用した前時の振り返りを行うなど、授業の展開方法を工夫している。
- 児童生徒を個別に指導する際、児童生徒の言動のみに目を向けるのではなく、その言動の背景を障がいの特性等の視点から推測して、適切に対応している。
- 障がいのある児童生徒と障がいのない児童生徒が共に活動する際、触れ合いを通じて豊かな人間性を育むことと、教科等のねらいを達成することの両面を考えて活動を行っている。



◇自分の姿を振り返って

[A よくできている B ややできている C あまりできていない D できていない]

項 目	月日 /	月日 /	月日 /
ユニバーサルデザインの視点を取り入れた学級経営・授業づくりを行っている。			
特別支援教育の視点を持ちながら、生徒指導に取り組んでいる。			
障がいのある児童生徒と障がいのない児童生徒が共に学ぶため、交流及び共同学習の内容・方法を改善している。			

「えひめ人材育成力」

愛媛県では、「愛媛の未来づくりプラン」において、4つの愛顔（えがお）づくりへの挑戦の一つとして、「未来を拓く豊かで多様な『人財』を“育む”」ことを挙げています。学校では、一人一人の児童生徒が愛媛の未来を担い、世界にも貢献できる「人財」となることを目指すことが求められています。

基盤形成期

～

資質・能力発展期

指標

ふるさと愛媛に誇りと愛着を持たせる教育の実現に努める。
国際的な視野を養うとともに、地域の課題に目を向け、愛媛の未来を拓く人材の育成に努める。

様々な教育活動を通して、児童生徒が愛媛のよさを理解し、愛媛に誇りを持つことができるような工夫が必要です。また、グローバル化する社会で活躍する児童生徒の育成を図るとともに、地域のよさと課題を明確に捉え、地域のよさを伸ばし、課題を解決しようとする意欲的な態度を育むことが求められます。

[具体的な姿]

- 愛媛の風土、文化、歴史、産業等について、常に最新の情報を収集している。
- 愛媛のよさや課題について理解し、様々な学習活動や体験活動に生かしている。
- 様々な教育活動の中で、国際理解教育の視点を取り入れ、児童生徒の多様な価値観を尊重し合う態度の育成を図っている。
- 世界と地域のつながりなど、児童生徒が広い視野から地域のよさや課題を捉え、よりよい社会をつくろうとする実践的な態度の育成を図っている。



◇自分の姿を振り返って

[A よくできている B ややできている C あまりできていない D できていない]

項目	月日 /	月日 /	月日 /
愛媛の風土や文化、新しい情報などに関心を持ち続け、教育活動に生かしている。			
様々な教育活動の中で、多様な価値観を尊重し合う態度を育成している。			
児童生徒が国際的な視点から地域のよさや課題を捉え、持続可能な社会をつくろうとする態度の育成に取り組んでいる。			

「組織貢献力」

組織には、共通目標（組織目標）、協働意識（貢献意識）、コミュニケーションが必要です。学校の教育目標を達成するためには、それぞれの教員が専門性を高め、組織の一員としてその役割に応じた活躍することが求められています。一人一人が組織貢献力を身に付けることにより、一人では達成できない共通の目標を実現することが可能になります。

資質・能力向上期

指標

自分にできることを考え、積極的に実践する。

校務分掌上明確になっている自分の役割を確実に果たすことに加え、学校の教育目標の実現に向け、自ら新しい取組を考え、実践していく必要があります。そのためには、これまでの業務遂行上の課題を正確に分析し、目標と現状とのギャップをつかむことや自分の業務と関係する同僚の業務についても把握することが大切です。

- [具体的な姿]
- 自分の業務の取組を振り返り、業務遂行上の課題について正確に分析している。
 - 課題の解決に向け、自分の担当する業務について、改善のための具体的な手立てを考え、実行している。
 - 学校教育目標の実現に向け、生徒指導や授業方法、学校行事などにおいて、新しいアイデアを考え、提案している。
 - 同僚の業務を理解し、協力できることは進んで手伝っている。
 - 学校の教育目標の達成に向けた取組について、同僚と協力しながら考え、実践している。



◇自分の姿を振り返って

[A よくできている B ややできている C あまりできていない D できていない]

項目	月日 /	月日 /	月日 /
自分の業務の取組についての課題を分析し、改善のための具体的な手立てを考え、実行している。			
学校教育目標の実現に向けた新しいアイデアを考え、提案している。			
同僚の業務を理解し、自分の業務と連携できることを見付け、協働している。			

「学校安全の意識・危機管理能力」

学校の教育活動等においては、児童生徒等の安全の確保が保障されることが、最優先される前提です。全ての学校において、管理職のリーダーシップの下、学校安全に関する組織的な取組を推進するとともに、全ての教職員が、各キャリアステージにおいて必要に応じた学校安全に関する資質・能力を身に付ける必要があります。

基盤形成期

～

資質・能力向上期

指標

**危険を予測し、未然防止に努める。
緊急時に適切な対応をする。**

事件・事故災害の発生時に、他の教員と連携して適切に行動するために、自校の危機管理マニュアルに基づき、自己の役割と学校全体の対応方針について、普段からよく理解しておく必要があります。また、事故事例や学校安全に関する資料の活用や、先輩教員の緊急時の対応経験を通して、安全教育の在り方について積極的に学ぶなど、教育活動時の適切な安全管理や児童生徒に対する安全教育を行っていくことが求められます。

[具体的な姿]

- 自校の危機管理マニュアルを熟読し、緊急時における連絡体制や自らの役割について理解するとともに、先輩教員から緊急時の対応方法について積極的に学ぶ。
- 事件・事故災害が発生した場合には、危機管理マニュアルに基づき、他の教職員と連携して迅速に対応する。
- 授業や部活動など、様々な教育活動において、事故事例等に基づき予測し、危険の除去に努めるとともに、緊急時の対応について事前に想定するなど、児童生徒の安全の確保に留意する。
- 児童生徒に対して、学校生活や日常生活に潜む危険性や事件・事故災害が発生した場合の行動の在り方を考えさせるなど、安全に対して主体的に行動できる資質・能力を育む安全教育を実践する。



◇自分の姿を振り返って

[A よくできている B ややできている C あまりできていない D できていない]

項目	月日 /	月日 /	月日 /
自校の危機管理マニュアルに基づく、緊急時における連絡体制や自らの役割について理解している。			
様々な教育活動における事故等の可能性について予測し、児童生徒の安全の確保のための具体的な対策を講じている。			
児童生徒が安全に対して主体的に行動できる資質・能力を育む安全教育を実践している。			

「協働性・同僚性」

学校における複雑かつ多様な課題に対応するためには、職場の同僚間のチームワークを高め、組織的かつ効果的な対応を行う必要があります。そのため教員は、共通の目的に向かって課題を解決するために協働することが重要です。さらに、協働性を高めていくためには、よりよい職場の人間関係や仲間意識を築き、同僚性を発揮していくことが必要不可欠です。

資質・能力向上期

指標

自他のよさを生かし、連携して課題を解決する。

教員は責任感が強く、一人で解決しようとしがちです。しかし、その責任感が問題の解決を困難にする場合もあります。一人で全てのことをできる人はいません。何かしら得手、不得手があるものです。自分の得意なこと、他の先生の得意なことをお互いに発揮し、カバーし合いながら、チームワークで諸課題の解決に取り組むことが重要です。

[具体的な姿]

- 自分の得意分野を生かし、同僚が成長できるようサポートするとともに、同僚からも多くのことを学び、自分の成長につなげている。
- 指導方法や教材に関する情報交換を密に行ったり、互いの授業を参観したりして、共に高め合っていこうとする。
- 生徒指導では、個人の思い込みや抱え込みに陥ることなく、同僚と協力し合って、問題解決に取り組んでいる。
- 日常的に教職員同士で頻繁にコミュニケーションをとり、相談し合う中で、必要な情報やヒントを得たり、取組の成果や課題を確認したりしている。



◇自分の姿を振り返って

[A よくできている B ややできている C あまりできていない D できていない]

項目	月日 /	月日 /	月日 /
自分自身や他の教員の得意分野、苦手分野を把握し、お互いに助け合いながら課題解決を行っている。			
一人で仕事を抱え込まずに、互いに円滑なコミュニケーションをとり、連携して諸課題の解決に当たっている。			
児童生徒の支援のため、学年内だけでなく、他学年の教員とも情報共有を積極的に行っている。			

「対人関係力」

学校においては、児童生徒や保護者だけでなく、同僚や地域の人々まで広く信頼される教員が求められています。そのためには、自らの考えや学校の方針等を分かりやすく説明するとともに、相手の考えを正確に理解し、組織としてのよりよい方向性を見出すための意思疎通を行っていくことが大切です。

資質・能力向上期

指標

相手の考えを柔軟に受け止め、自分の考えを分かりやすく伝える。

学校運営に主体的に関わっていくためには、「相手を受け入れる力」「聞く力」が大切になります。傾聴のスキルを身に付け、児童生徒や保護者、地域が持つ教育課題に関する様々な情報の収集に努めましょう。その上で、自らコミュニケーションを図る場をデザインし、教員間で情報の共有化、共通理解を推進するために建設的な意見を発信することが望まれます。

[具体的な姿]

- 校内外の様々な場面において、コミュニケーションスキルの向上につながる研修を行う。
- 児童生徒や保護者とのコミュニケーションにおいては、場面に応じて適切な手法を選択し、相手が安心して話ができる雰囲気をつくる。
- 学年会や職員会議等においては、主体的に質問して自分たちが抱える教育課題を把握する。
- 学級運営においては安易に多数決で物事を決定せず、少数意見を大切に示す姿勢を示す。
- 批判的な意見も期待の表明として受け取り、批判の言葉の中から情報を集め、相互の関係を見直す対応ができるような聴き方をする。



◇自分の姿を振り返って

[A よくできている B ややできている C あまりできていない D できていない]

項目	月日 /	月日 /	月日 /
児童生徒と適切な人間関係を構築するために、メリハリをつけた言葉遣いや行動ができている。			
会議等で発言する際には、事前に伝える情報を精選し、相手に的確に内容が伝わるように工夫している。			
児童生徒の生活ノート等へのコメントについては、保護者が読むことを前提に記入している。			

「地域と連携・協働する力」

学校が抱える課題が複雑化・困難化する中、学校は「社会に開かれた教育課程」の実現に向け、地域との連携を一層進めていくとともに、地域においても、子どもたちの成長を支える活動に、より主体的に参画していくことが必要です。「地域とともにある学校」への転換を目指していく上で、地域のニーズを把握し、積極的に関わっていくなど地域と連携・協働していくことが求められます。

資質・能力向上期

指標

地域と連携・協働した教育活動に、積極的に取り組む。

地域で行われている活動や行事についての情報を集めるとともに、職場体験学習やボランティア活動において、児童生徒が意欲的に活動できるよう工夫をすることが求められます。また、地域の方々との連携・協働することを通して、今後の活動につながる人脈を形成することも大切です。

[具体的な姿]



- 地域で行っている運動会や奉仕活動など児童生徒が関わる行事について情報を収集している。
- 職場体験学習やボランティア活動などを実施する場合は、事前の打ち合わせを十分に行い、目的・内容などの共通理解を図る。
- 事前指導で活動の目的や内容を明確に示すなど児童生徒が意欲的に活動できるようにしている。
- 活動に取り組んだ後に、成果や課題を記録に残している。
- 地域の方々と交流することを通して地域人脈を広げている。

◇自分の姿を振り返って

[A よくできている B ややできている C あまりできていない D できていない]

項目	月日 /	月日 /	月日 /
地域で行っている児童生徒が関わる行事について情報を収集している。			
地域に関する体験的な学習活動の実施に当たっては、事前の打ち合わせを十分に行い、共通理解を図っている。			
児童生徒が地域と連携・協働した活動に意欲的に参加するための工夫をしている。			